

令和5年度食の安心・安全アンケート調査結果について

1 調査の概要

(1) 目的

府民の食の安心・安全に係る意識を把握し、京都府における食の安全や信頼性の確保の推進に資する。

(2) 調査対象

京都府広報モニター

(3) 調査方法

インターネット調査

(4) 実施期間

令和6年1月

(5) 有効数

265

(6) 調査項目

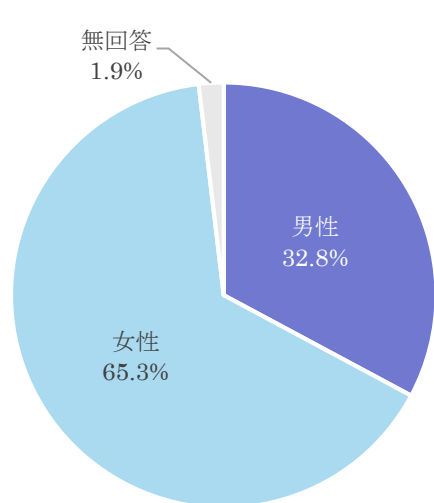
- ア 食品の安全に対する意識
- イ 食品の安全について関心のあること
- ウ 食品の安全に関する情報の情報源
- エ 食品の安全に関して気をつけていること
- オ 食品の安全について行政に行ってほしいこと

【京都府広報モニター】

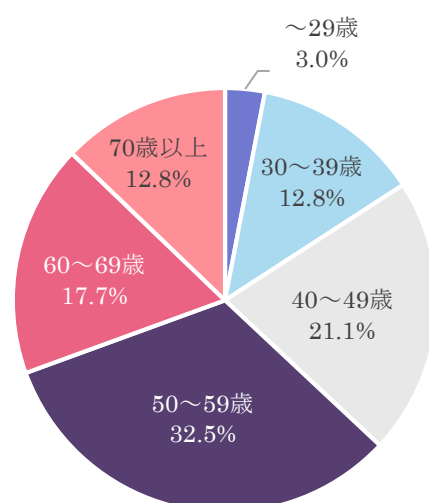
- 趣 旨 府民参加による開かれた府政の推進を目的として、府が行う広報活動についてアンケート調査を実施し、府政運営の参考とする。
- 活動内容 府が行う広報活動に対する、インターネットを利用したアンケート調査への回答など。
(年12回程度)

2 回答者の属性

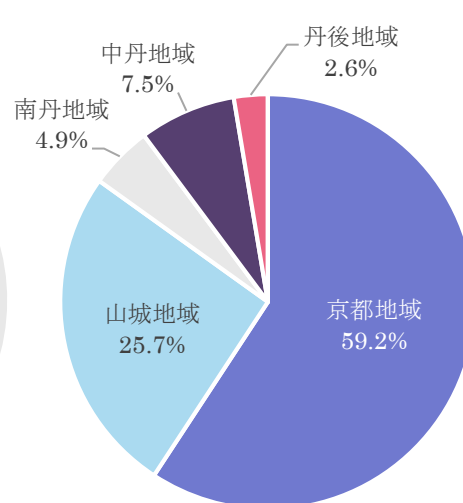
区 分		回答数 (人)	割合 (%)
全 体		265	100.0
性 別	男性	87	32.8
	女性	173	65.3
	無回答	5	1.9
年 齢	20代以下	8	3.0
	30代	34	12.8
	40代	56	21.1
	50代	86	32.5
	60代	47	17.7
	70代以上	34	12.8
居住地域※	京都地域	157	59.2
	山城地域	68	25.7
	南丹地域	13	4.9
	中丹地域	20	7.5
	丹後地域	7	2.6



① 性 別



② 年 齢



③ 居住地域

※【居住地域の区分】

京都地域：京都市、向日市、長岡京市、大山崎町
 山城地域：宇治市、八幡市、久御山町 以南
 南丹地域：亀岡市、南丹市、京丹波町
 中丹地域：福知山市、舞鶴市、綾部市
 丹後地域：宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町

3 調査結果

問1 京都府の食の安心・安全について、どのように感じていますか。次の中から1つ選んでください。「どちらかといえば不安」「不安」を選んだ方はその理由もお書きください。

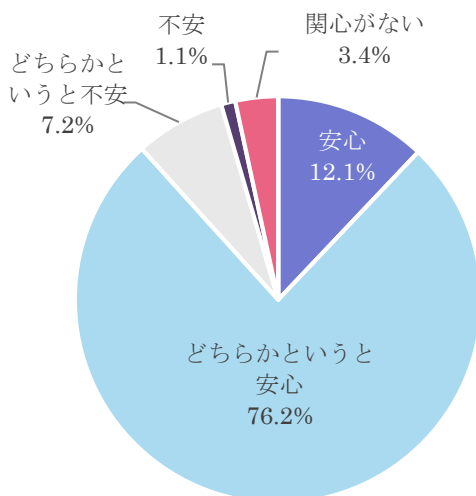
	回答数	割合 (%)
安心	32	12.1
どちらかといえば安心	202	76.2
どちらかといえば不安	19	7.2
不安	3	1.1
関心がない	9	3.4
合計	265	100

【「どちらかといえば不安」「不安」と回答した理由等】

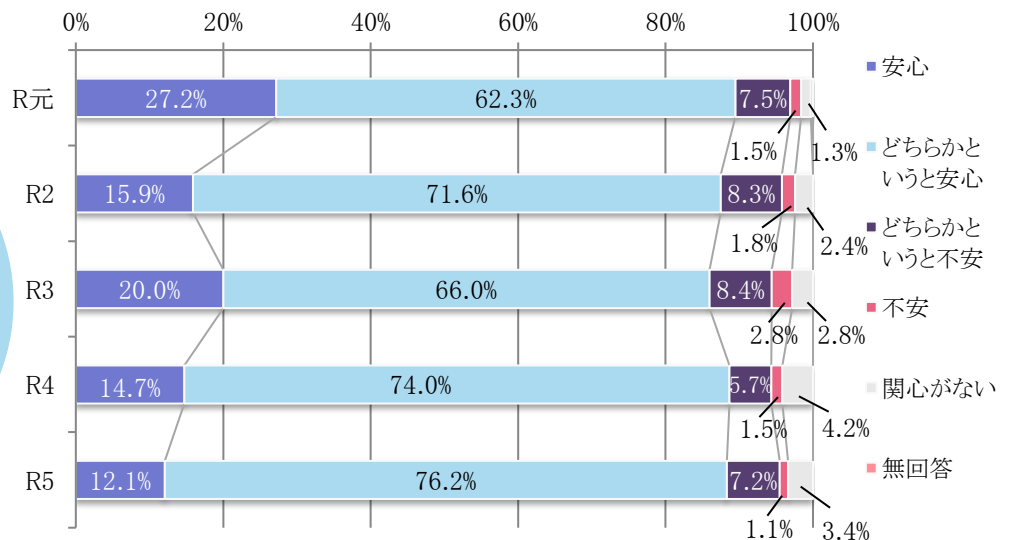
- ・絶対に安全なものはないと思っているから
- ・農業従事者が年々減少しているから
- ・気候の変動が激しくて野菜が育ちにくくなっているから
- ・物価高等により、「安心・安全」に手が届きにくくなりそうな気がして不安

結果概要

- ・「安心」又は「どちらかというと安心」と感じる方の割合は、88.3%とほぼ横ばいです。
- ・「どちらかといえば不安」「不安」と回答した方の中では、気候変動による影響や農業者の減少などに高い関心をお持ちの方がみられました。



① 項目別



② 年度別

問2 食品の安全について、あなたが特に関心をもっていることは何ですか。次の中から3つまで選んでください。

	回答数	割合 (回答数%)	割合 (回答者%)
食中毒（O157、ノロウイルスなど）	116	17.8	43.8
食物アレルギー	42	6.5	15.8
汚染物質（メチル水銀、カドミウムなど）	60	9.2	22.6
残留農薬	71	10.9	26.8
食品への異物混入	53	8.2	20.0
食品中の放射性物質（放射性セシウムなど）	14	2.2	5.3
偽装表示（産地、原材料、賞味期限など）	105	16.2	39.6
遺伝子組換え食品	26	4.0	9.8
輸入食品	31	4.8	11.7
食品添加物	84	12.9	31.7
いわゆる健康食品※	20	3.1	7.5
BSE（牛海綿状脳症）、鳥インフルエンザ	11	1.7	4.2
特に不安に思っていない	15	2.3	5.7
その他	2	0.3	0.8
合計	650	100	

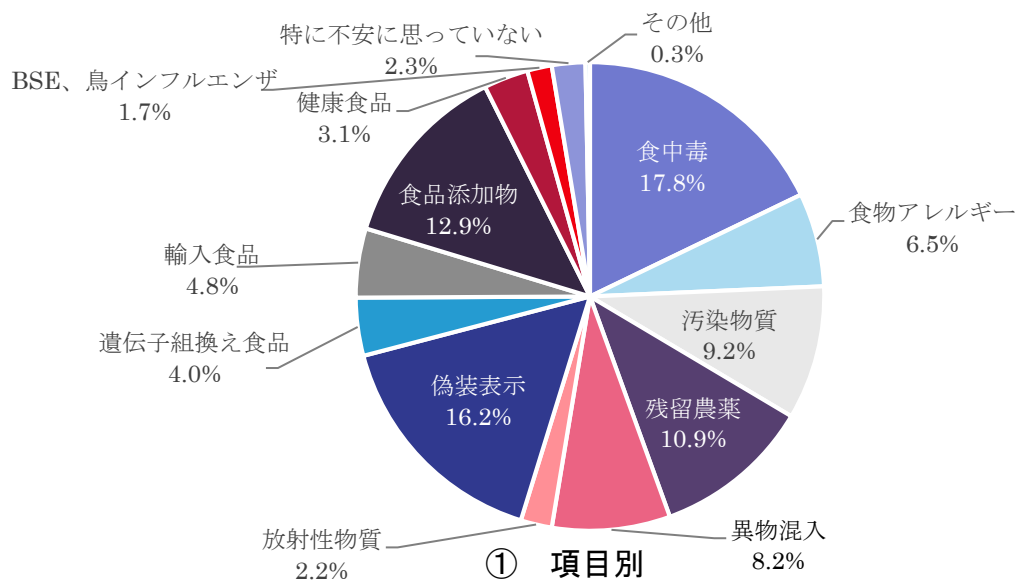
※「健康食品」と呼ばれるもののうち「特定保健用食品」「栄養機能食品」「機能性表示食品」を除くもの

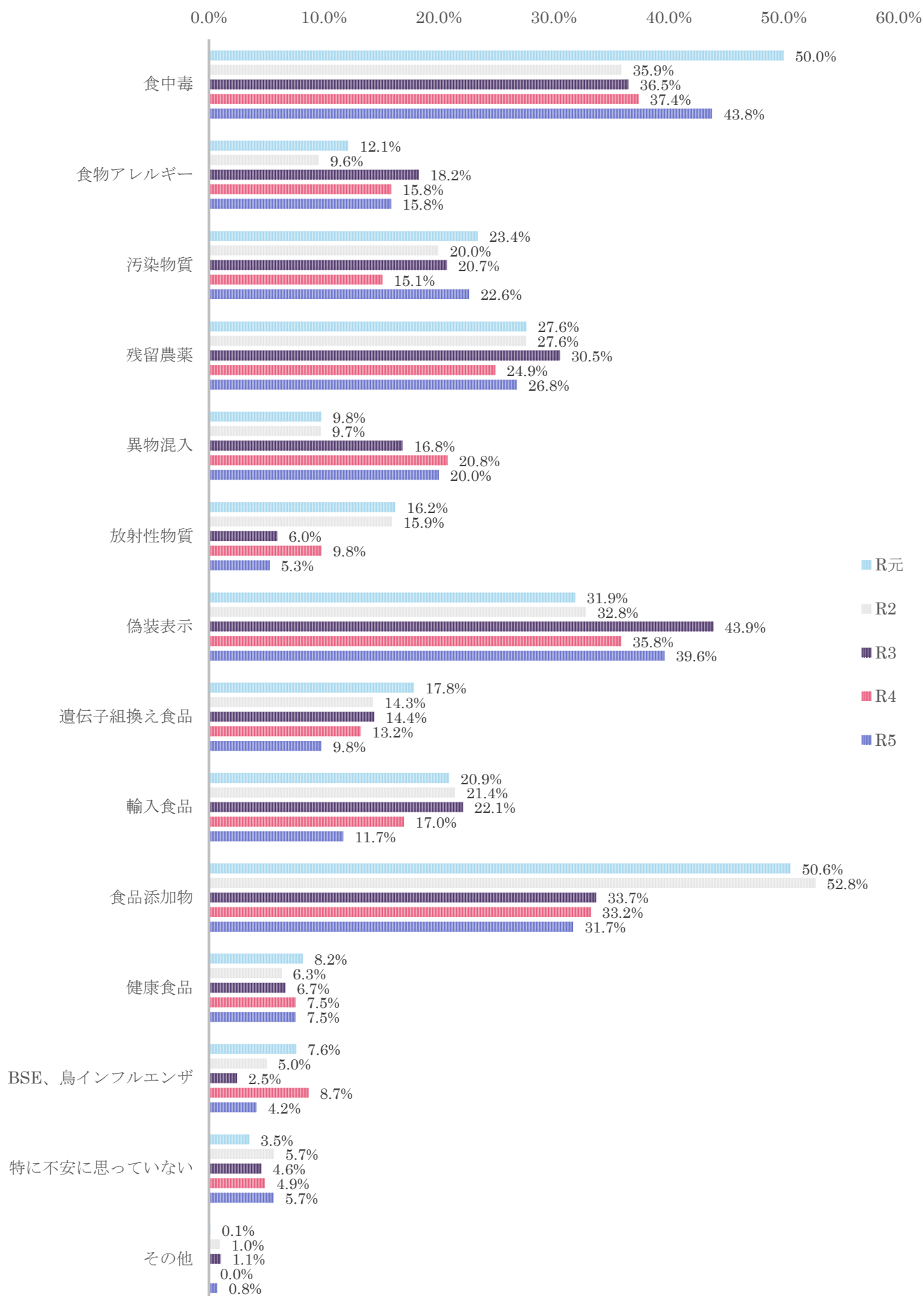
【その他の意見】

- ・フードロスや「手前どり」について

結果概要

- ・食中毒、偽装表示、食品添加物への関心が高い傾向にあります。
- ・全体的な傾向は昨年度から大きな変化はありません。





② 年度別

問3 あなたは、食品の安全に関する情報について、どこから得ることが多いですか。
次の中からいくつでも選んでください。

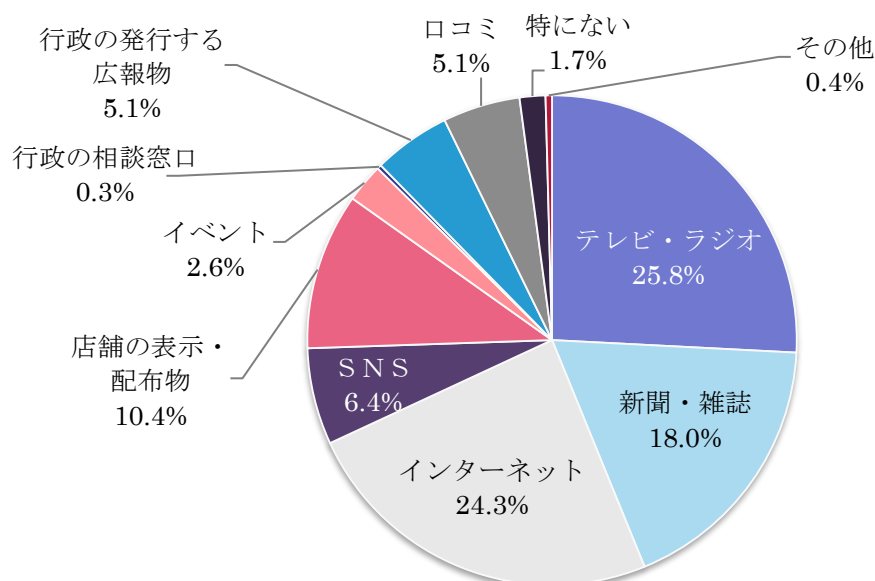
	回答数	割合 (回答数%)	割合 (回答者%)
テレビ・ラジオ	182	25.8	68.7
新聞・雑誌	127	18.0	47.9
インターネット	171	24.3	64.5
SNS (X(旧 Twitter)、Facebook など)	45	6.4	17.0
スーパー、小売店、宅配などでの表示や配布物	73	10.4	27.5
イベント (講演会・シンポジウムなど)	18	2.6	6.8
行政の相談窓口	2	0.3	0.8
行政の発行する広報物	36	5.1	13.6
口コミ (友人・家族・従業員など)	36	5.1	13.6
特にない	12	1.7	4.5
その他	3	0.4	1.1
合計	705	100	

【その他の意見】

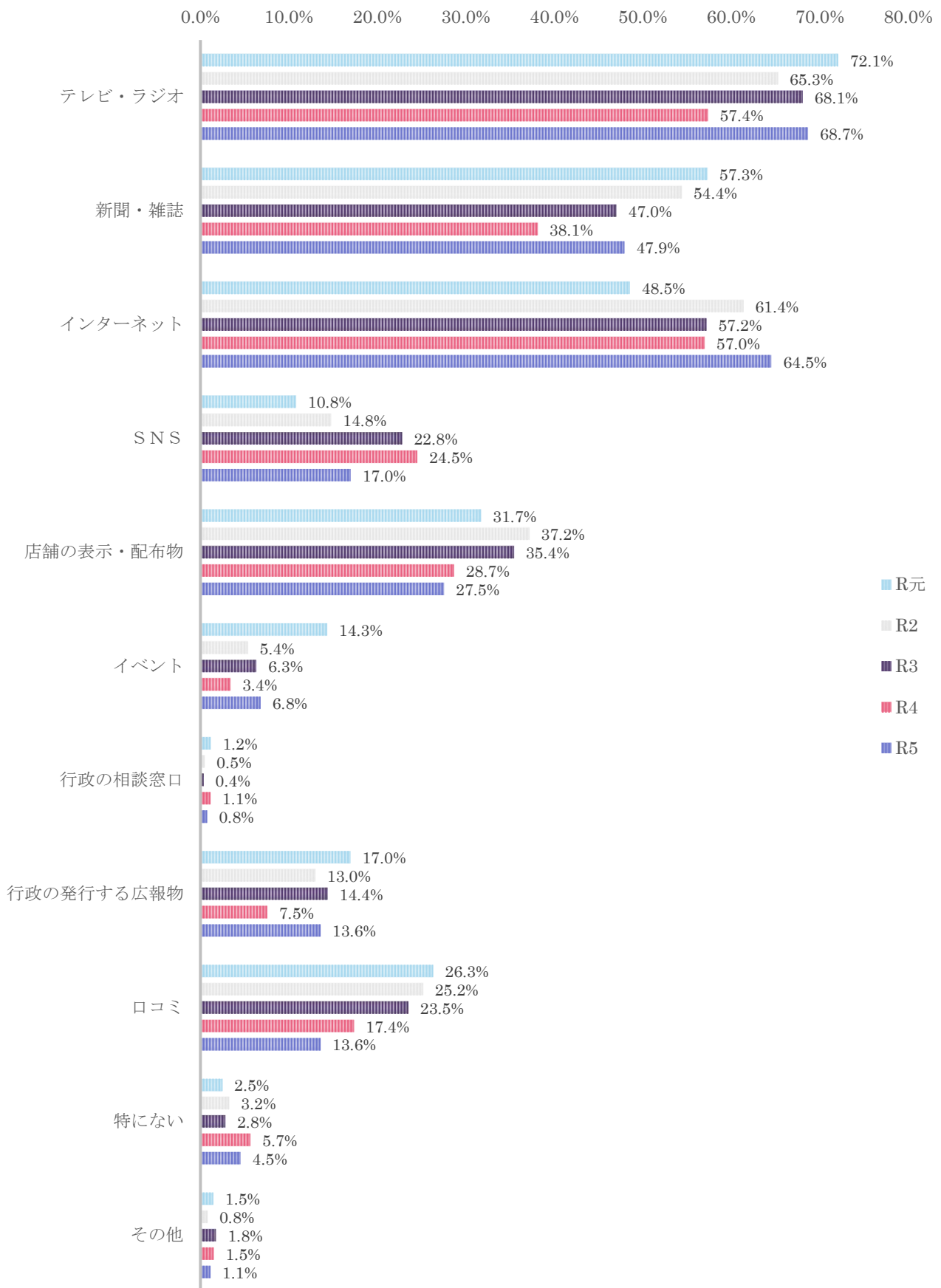
- ・ 食品安全に関わる仕事をしているので、関係機関から提供される情報
- ・ FAMIC や農水省のサイト等

結果概要

- ・ 過去4年のテレビ・ラジオ、新聞・雑誌の減少傾向から反転増加しました。
- ・ インターネットとSNSから情報を得ている方の割合を合わせると、全体の約3分の1を占めています。



① 項目別



② 年度別

問4 あなたは、食品を購入する時に、食品の安全についてどのような点を考慮していますか。次の中から**3つまで**選んでください。

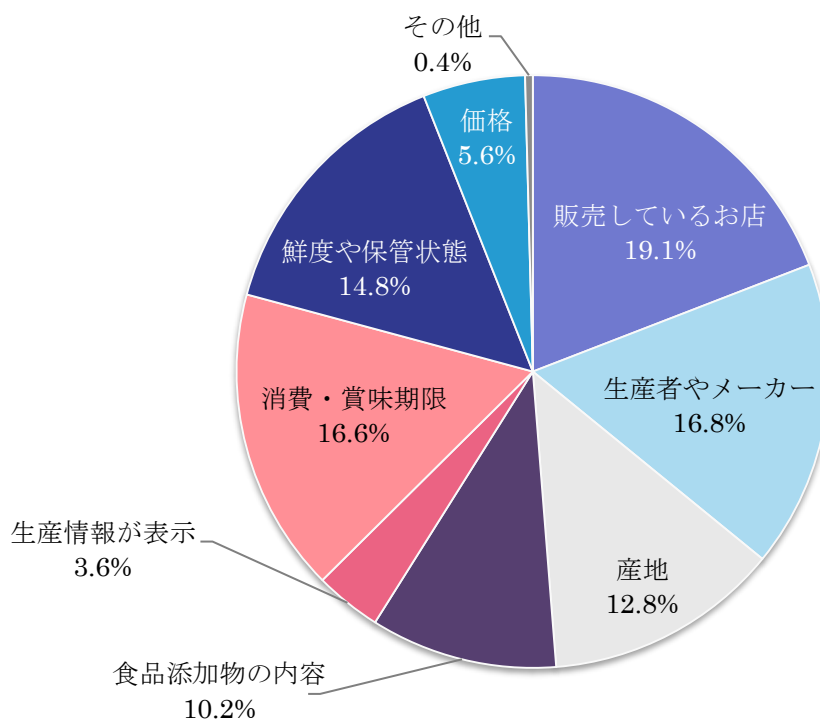
	回答数	割合 (回答 数%)	割合 (回答 者%)
販売しているお店が信頼できること	137	19.1	51.7
生産者やメーカーが信頼できること	120	16.8	45.3
産地	92	12.8	34.7
食品添加物の内容	73	10.2	27.5
生産者の名前など生産の情報を表示していること	26	3.6	9.8
消費期限や賞味期限	119	16.6	44.9
鮮度や保管（保存）状態が良いこと	106	14.8	40.0
価格	40	5.6	15.1
その他	3	0.4	1.1
合計	716	100	

【その他の意見】

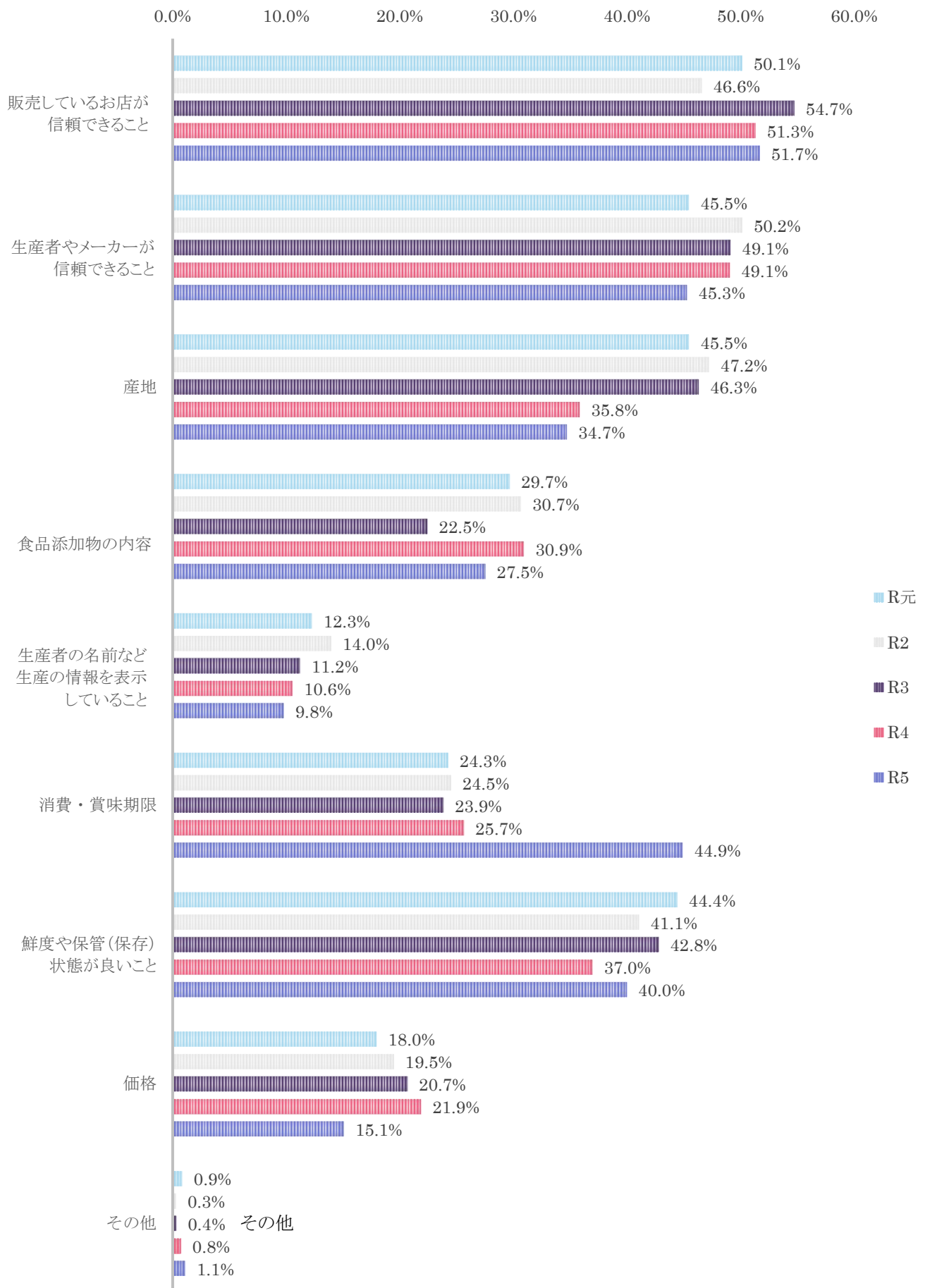
- ・フードロスや「手前どり」について

結果概要

- ・販売店や生産者・メーカーへの信頼感や消費期限・賞味期限が購入の際の判断材料にされる方が多い傾向です。



① 項目別



② 年度別

問5 食品の安全を高めるために、京都府がさらに強化すべき取組は何だと思えますか。
次の中から3つまで選んでください。

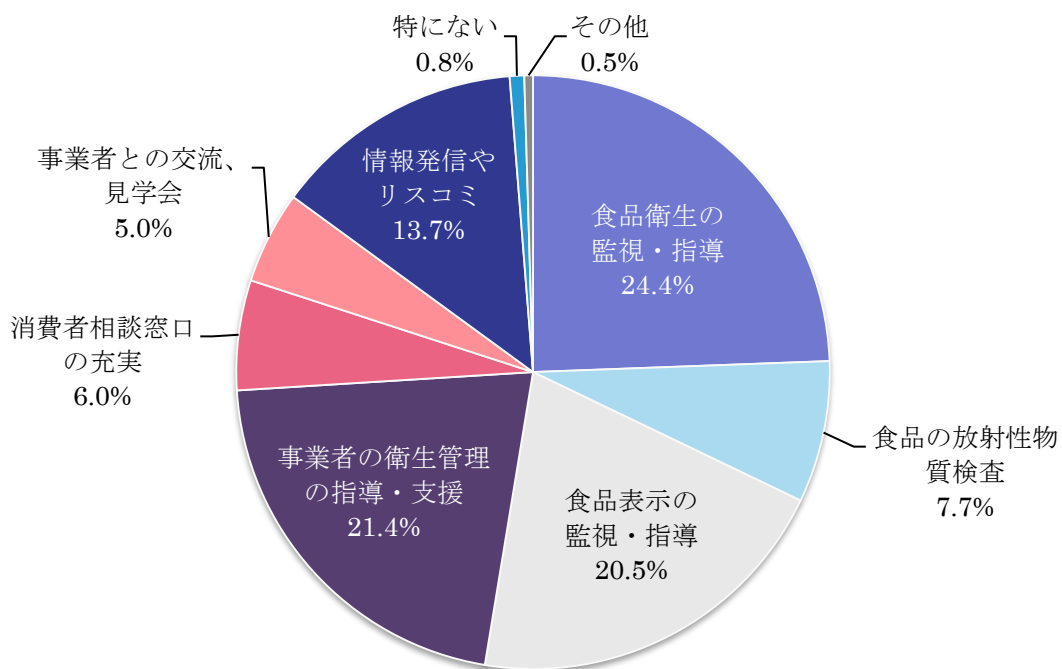
	回答数	割合 (回答 数%)	割合 (回答 者%)
残留農薬や食品添加物の検査などの食品衛生の監視・指導	155	24.4	58.5
食品の放射性物質検査	49	7.7	18.5
食品表示の監視・指導	130	20.5	49.1
食品工場や売り場など事業者の衛生管理の指導・支援	136	21.4	51.3
消費者相談窓口の充実	38	6.0	14.3
消費者と食品事業者の交流会や食品工場の見学会などの開催	32	5.0	12.1
消費者への分かりやすい情報発信やリスクコミュニケーションの推進	87	13.7	32.8
特にない	5	0.8	1.9
その他	3	0.5	1.1
合計	635	100	

【その他の意見】

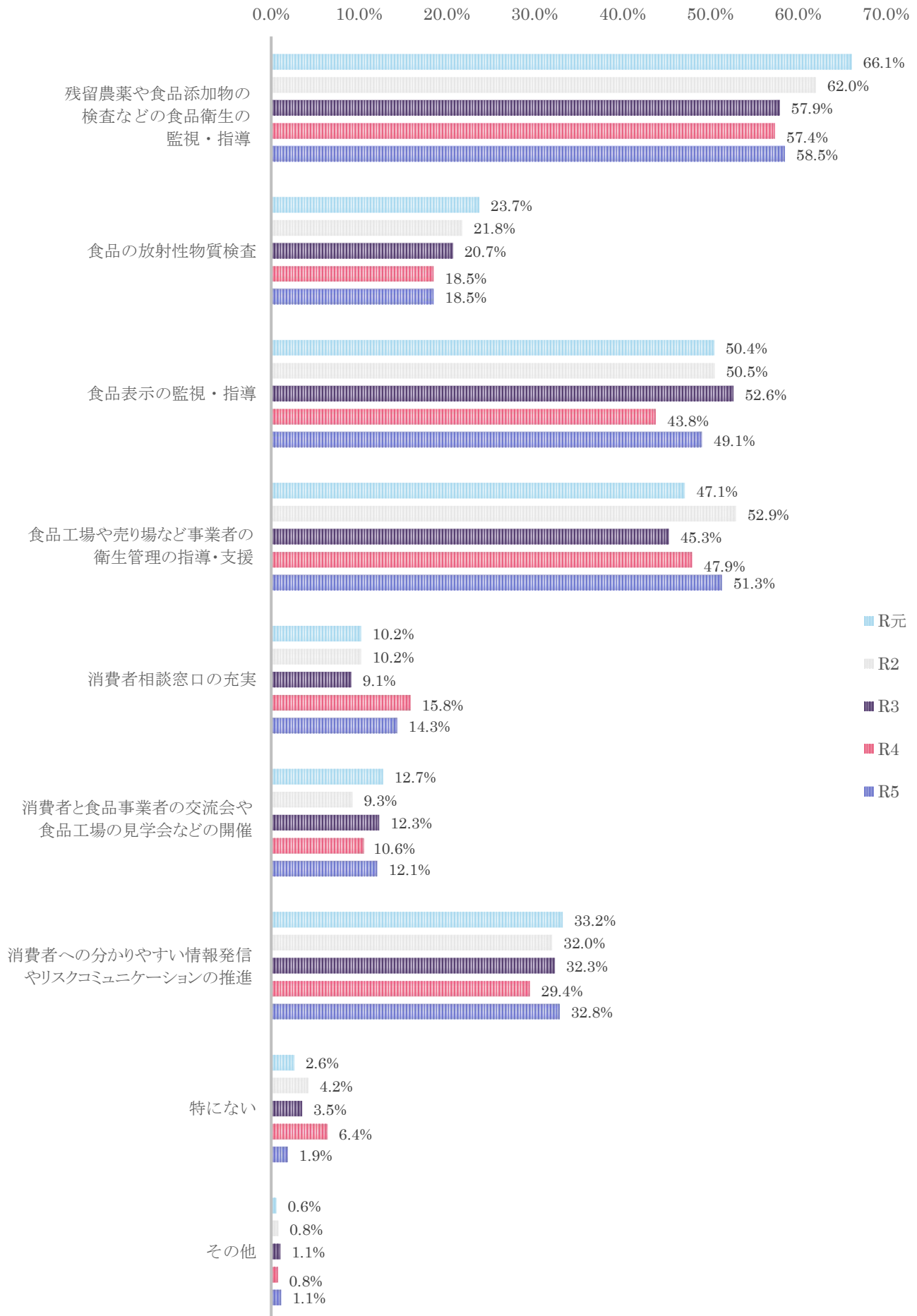
- ・海外では使用禁止のものが、日本に流れていて、使用していると聞いたから。
- ・食品の放射性物質検査や衛生指導の状況について、見える化して欲しい。

結果概要

- ・事業者の監視・指導や支援の取組を強化してほしいと考える方が多い傾向です。
- ・全体的な傾向は昨年度から大きな変化はありません。



① 項目別



② 年度別